

新医学系指针对应「情報公開文書」改訂フォーム

研究協力のお願

昭和大学病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

外側後頭下開頭において静脈洞損傷を回避する新たな key hole 位置の決定法—groove line の提唱—
<p>1. 研究の対象および研究対象期間</p> <p>2014年4月1日～2018年12月31日の当施設において 三叉神経痛単独もしくは三叉神経痛・顔面痙攣併発に対して神経微小血管減圧術を受けられた方</p>
<p>2. 研究目的・方法</p> <p>三叉神経痛、片側顔面痙攣、小脳橋角部腫瘍などの後頭蓋窩病変の手術において用いられる外側後頭下開頭法では、開頭の際に横静脈洞(Transverse Sinus)からS状静脈洞(Sigmoid sinus)を損傷しないように露出することが重要です。特にS状静脈洞から横静脈洞への移行部の内側縁(Transverse-Sigmoid Sinus Junction point: TSJ point)露出の際の穿頭(key hole)の位置決定において、様々な方法が提唱されています。当施設においてはposterior mastoid lineよりも内側向きに、digastric grooveを形成する溝があり、その延長線をdigastric line (DL)と命名し、digastric groove後端をdigastric point (DP)と定め、DL上でDPから20mm頭側の点がちょうどTSJ pointにあたと想定し、これに内接するようにkey hole position(KP)を設定してきました。この穿頭位置決定方法により重篤な静脈洞損傷を経験することなく手術可能であったことから、同決定方法の有用性を検討します。</p> <p>具体的にはTSJ pointの露出が必要となる三叉神経痛、もしくは三叉神経痛・片側顔面痙攣合併症例において、2014年4月1日～2018年12月31日の間に当施設で実際に神経微小血管減圧術を施行した33名の患者を対象に、術中画像からDigastric point, TSJ point, Asterion, Transverse sinusなどの後頭蓋の構造物の距離を測定し得られたそれぞれの平均値・中央値・標準偏差等をもとにkey holeの位置を検討し、当院での手術方法の妥当性を検討します。</p> <p>研究期間</p> <p>2014年4月1日～ 2018年12月31日に施行した手術の患者を対象とし、「医学部人を対象とする研究等に関する倫理委員会」承認後、2022年3月までを研究期間とします。</p>
<p>3. 研究に用いる試料・情報の種類</p> <p>手術中に測定したDigastric groove基部(Digastric groove point)からのAsterion, TSJ point,</p>

Transverse sinus との距離

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学病院 脳神経外科学講座 氏名：久保 美奈子
住所：142-8555 東京都品川区旗の台 1-5-8 電話番号：03-3784-8605

研究責任者：昭和大学病院 脳神経外科学講座 氏名：久保 美奈子